

## 第54回 全国七大学総合体育大会

### バレーボール競技

#### 競技要項

主催：北海道大学体育会 東北大学友会体育部 東京大学運動会 名古屋大学体育会  
京都大学体育会 大阪大学体育会 九州大学体育総部  
主管：東北大学学友会男女バレーボール部  
協力：宮城県バレーボール協会  
特別協賛：一般社団法人 学士会

#### 1. 日程

平成27年8月6日（木）～10日（月）

開会式 8月6日 9時半

閉会式 8月10日 最終試合後

試合開始時間 各日10:00

#### 2. 会場

仙台市新田東総合運動場 元気フィールド仙台メインアリーナ

#### 3. 参加者・参加資格

入学から4年(48か月)未満の者

※非七大学学生は、本戦への出場不可。全参加大学が認めた場合、新人戦への参加を許可する。

#### 4. 本戦・本戦以外の構成

6日：新人戦。本選の順位に関係なし。

7日以降：本戦

#### 5. 競技規則・試合の進行方法

・本大会は、平成26年度（財）日本バレーボール協会6人制競技規則に従って実施する。ただし、今大会の目的（大学間の交流ならびに技術向上）を達成するために、一部特別なルールを採用する。

・試合は3セットマッチとし、新人戦の第1試合～第4試合のみ1セットマッチとする。また、すべての試合をワン・ボール・システムで運営する。また、試合は男女同時刻開始とし、男女で遅く終わった試合の15分後に次の試合のプロトコールとする。ただし、進行状況によっては追い込み式とする場合がある。

・新人戦はトーナメント方式、本選は男女別の総当たり方式とする。

・新人戦は3位決定戦を行い、1位から3位までを決定する。

・本選は勝った試合数によって順位を決定する。ただし、勝ち数で並んだチームがある場合は得セット率で順位を決定する。得セット率でも並んだ場合は得失点率で順位を決定する。

・公式練習中及びゲーム中は、当該チームの関係者であれば誰でも、フロアに入り参加・応援することができる。ただし、ベンチに座れるのは有効に登録されたチームの役員（部長、監督、コーチ、トレーナー、マネージャー）とし、各人規定のマークを付けること。また、ゲーム中の応援は各チームのウォーム・アップエリア周辺とし、ラリー中は近づかないこと。ボール・デット間はコートに入っても良いが、ラリー開始のサービスを妨げないよう、速やかに元の場所に戻ること。

・上記に関して、前ラリー終了の吹笛から次のラリーのサービス許可までの時間は通常8秒であるが、ボール・デット間の応援を優先し、8～10秒とする。応援がラリー開始を妨げないときはこの限りではない。

・チームの構成メンバーは無制限だが、登録された番号が入ったユニフォームを着用すること。ただし、パフォーマー（場を盛り上げるために出場するもの。例えばコミカルなコスチュームを着ているものや、男子部における女子マネージャーなど）と判断される場合はこの限りではない。パフォーマーは個人記録集計の対象外となる。また、この選手交代もルール上定められたチームの競技交代の回数に含まれる。

・競技中断中の手続きやその回数はルールに従う。よって、タイム・アウトは1セットにつき2回要求でき、1回につき30秒である。選手交代は1セットにつき6回要求でき、不法な交代は認められない。また、競技中断中にはコートに入っただけの応援を認める。この場合なるべく30秒でコートから出なければならないが、極端に競技の再開を遅らせると判断されない限り、厳しくは処置されない。

・リベロ・プレーヤーは試合ごとに登録できる。ルールに則って正しく、速やかに交代すること。

・男女各コート間の空間では試合を妨げない程度のアップのみ許可される。（ボールは使用可）サブアリーナの使用は禁止。

・コートが濡れた場合

- (1) チームでのフロア・モップを準備し、ボール・デット間に速やかに拭き取ること。
- (2) モップの使用はタイム・アウト及びセット間、もしくは審判が指示した時のみ使用することができる。
- (3) コート外まで広く濡れた場合は、審判が判断し、その指示によって対応する。

・不法な行為については、一般の競技会では罰せられる内容でも、本大会の目的に照らし、また大会の雰囲気、品位を著しく損なわない限り極力罰しない。例えば、応援とみなされるもの（コミカルな衣装、ゲームの邪魔にならない程度の鳴り物、コートに入っただけのパフォーマンス、相手チームへのアクションなど）はすべて認める。ただし、以下の場合には厳しく罰する。

- (1) 審判判定に対するアピール行為
- (2) 大会の雰囲気や品位を損なうような行為（侮辱的な行為、暴力行為を含む）
- (3) 一度注意されたことを再度繰り返すこと
  - ・遅延行為については、それが応援である限り極力罰しない。応援はあらゆる場面で、また競技場のいたる所で行われるが、競技が極端に遅れると判断される場合を除き、その一連行為（パフォーマンス及びアクション）が終了するまでサービスの吹笛を待つ。ただし、以下の場合には遅延行為として罰する。
    - (1) 競技交代が遅れたとき
    - (2) 不法な競技者交代の要求をしたとき
    - (3) 不法な要求を繰り返したとき
    - (4) 応援以外の行為で競技を遅らせたとき
    - (5) 一度注意されたこと再度繰り返したとき
    - ・その他必要に応じて、大会役員で協議し決定した事項については、チーム及び審判、その他の役員はその決定に従うこと。